

平成 29 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

平成 29 年 4 月 24 日
鳥取県病害虫防除所

1 病害虫名 トマト葉かび病菌 レース 2.9

2 病原 *Passalora fulva* (Cooke)

3 発生作物 トマト、ミニトマト

4 発生地域 県中西部

5 発生確認の経過

- (1) 平成 28 年 6 月、県西部の施設トマトほ場において、葉かび抵抗性遺伝子 *Cf-9* を持つ品種「りんか 409」に葉かび病の発生が確認された。
- (2) 同年 10 月、県中部の施設ミニトマトほ場において、同遺伝子を持つ品種「サンチェリーピュア」に葉かび病の発生が確認された。
- (3) 鳥取県園芸試験場において、上記発生圃場罹病葉より分離した葉かび病菌を葉かび病抵抗性品種「桃太郎あきな」「フルティカ」に接種したところ、両品種ともに発病を確認した。また、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門にレース検定を依頼したところ、いずれの菌株も本県では未確認のレース 2.9 (トマト葉かび病抵抗性遺伝子 *Cf-2* および *Cf-9* を侵すことができる菌株) であることが判明した。
- (4) 葉かび病抵抗性遺伝子 *Cf-9* を持つトマト品種を侵すレースは、国内では平成 19 年の福島県の発生報告以降、群馬県、愛知県、近隣では岡山県および山口県など各地で報告されている。

6 本病の病徴

- (1) 本病は中～下位葉より発生し、最初、葉の表面に不明瞭な淡黄色の小斑点を生じ、やがて葉の裏面に灰黄色から緑褐色のビロード状のかびが密生する。病勢が進むと上位葉にまん延し、葉が枯死する。
- (2) 本病と症状が酷似している病害にすすかび病があるが、肉眼での判別は困難であり、顕微鏡による確認が必要である。県内では、同一圃場内で両病害が混発している事例も見られている。

7 防除対策

- (1) 県内で栽培されている本病抵抗性品種の多くは、今回確認された葉かび病のレースに罹病性であることから、抵抗性品種を栽培している圃場でも本病の発生に注意する。
- (2) 多湿条件下で発生しやすいので、過度の密植を避け、換気を行うなど高湿度条件にならないように管理する。
- (3) 肥料切れや着果負担による草勢低下は発病を助長するので、適切な肥培管理を行う。
- (4) 葉裏の病斑上に孢子が形成されると急速に拡大し防除が困難になるため、初期防除に努め、薬剤が葉の裏面にも十分かかるように丁寧に行う。薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤のローテーションを行う(防除薬剤は、主要農作物病害虫防除指針(鳥取県植物防疫協会発行)を参照)。



写真1 葉かび病の葉裏の症状



写真2 葉かび病の分生子



写真3 すすかび病の葉裏の症状



写真4 すすかび病の分生子